令和8年度第4回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会　要点録

■会議の日時等

日時　令和8年（2026年）10 月6日（火）　午後1時30分～午後4時05分

会場　日野市クリーンセンター　プラスチック類資源化施設　2 階多目的室

出席者　協議会委員

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員

【市民委員】

公募市民：小川委員、小松原委員、清水委員、新井委員

市民団体：関口委員、小野寺委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、新野委員、多治見委員、津嶋委員、内田委員

【施設課長】

井上委員

事務局

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、志村係長、河本主任、土屋主事

欠席者　協議会委員

【市民委員】

学生：興津委員、鈴木委員、田中委員、五味委員

【環境政策課長】

成澤委員

傍聴者　なし

次第

1.開会

2.議事

3.その他

4.閉会

■主な内容

<協議会>

1. 開会

・開会のご挨拶（日野市）

2. 議事

事務局より説明。

① 前回議事の確認

② 第４次ごみゼロプランにおける課題、目標値及び施策について

（質疑応答）

A 委員：資料３の４ページの目標値について、過去実績を棒グラフ等を用いて視覚的にわかりやすく示すことはできないか。表形式では、達成可能な目標であるかどうかが判断しづらい。

事務局：第２回協議会の資料にて過去 10 年間の実績を整理している。目標値は過去10年間の実績値のトレンドを踏まえて統計学的な手法を用いて推計したものである。本協議会の資料には掲載していないが、計画書には記載する予定である。

会長：第2回協議会資料によると、1 人 1 日当たりのごみ排出量は、過去10年間で約100g削減してきた実績があるが、今回の計画では、今後 10 年間でさらに約 80g 削減する目標となっている。ごみ組成分析調査の結果より既に適切な分別が行われている現状を踏まえると、容易ではない目標であると考える。

B 委員：資料４および資料５において、各施策が表形式で整理されているが、計画書においても同様の形式とするのか、あるいは文章で記載する予定か。私としては、文章でまとめた方がわかりやすいと考える。

事務局：本日の資料の形式がそのまま計画書に掲載されるわけではない。本協議会の資料では第3次ごみゼロプランと相違点が比較できるよう、表形式にした。委員のご意見を踏まえつつ、市民によりわかりやすい記載方法を検討していく。

A 委員：資料 4 の 5 ページの「資源物の民間回収の促進」について、法律上資源物の回収は行政の役割であると認識している。民間回収も行うのであれば、表現の工夫が必要ではないか。また、39 ページについて、今後の高齢化の進展や外国人市民の増加を見据え、SNS や AI を活用し、ワンストップで問い合わせができる『ごみコンシェルジュ』の

ような仕組みがあると良いと考える。さらに、54 ページについて、資料3の数値目標によると、令和 7 年度比で約 4,500 トンのごみが削減される計画となっているが、これに伴いごみ収集車の台数減も期待できるのか。

事務局：「資源物の民間回収」という表現については、記載の見直しを行いたい。事務局の意図としては、拡大生産者責任の観点から、事業者にも一定の協力をいただきたいという趣旨であった。次に「ごみコンシェルジュ」について、第1次ごみ改革時は庁舎内に相談窓口を設けて対応していたが、現在はその役割がごみ分別アプリ等に移行しているところであるが、アプリ等は高齢者等の利用におけるハードルが高い傾向にある。ご提案のワンストップでの支援体制については、今後の検討課題とさせていただきたい。また、ごみ収集車の台数については、現在、午前中に 2 回、午後に 1 回程度市内を巡回して中間処理施設へ搬入している。ごみの量が減少すれば台数減につながる可能性はあるものの、より大幅に減少しなければ、台数削減は難しいと考えている。なお、現在の収集車は化石燃料を使用しているため、今後は環境負荷に配慮した車両の導入も併せて検討していく。

③　グループワーク

・「施策検討」

（1）.概要説明

（2）.グループワーク

（3）.発表

（4）.講評

3.　その他

次回（第5回）協議会の開催：11月4日（水）10時開催予定

4.　閉 会